

彼岸供養の時に読誦しているお経の中に「舍利礼文」というお経がございます。中に「入我入。佛我持故・我證菩提」とあります。先ず佛が私どもの方に入り、次に私共が仏の方に入らして頂く。佛様と凡夫が一体に成れる相が「入我入」と言う事になります。佛性が花開けば、叶う姿なのです。しかしながら、我々は「いろはうた」ではないですが、「浅き夢見し、酔もせず」とあるように、夢見て冷や汗をかき、夢で良かったと安堵した経験や、酔って自分を忘れ、醜態を晒してしまった。酒癖の悪い方も見えるでしょう。それらの幻影から覚めて初めて、自分を修正する事ができます。人間として、如何にあるべきか。反省しながら自己の啓発、生活が始まります。悪しき行動を、悪い、と思う心が残っていれば、まだ救われよう。狂人は狂人である事をゆめゆめ知らぬものなり。

二月は善入院の御本尊一光三尊善光寺如来のご縁日**七草法要**が厳修されます。お釈迦様が仏教をお開きになられた基は、「私達が生活を営むには、苦が伴います。人間は段々歳を重ねていくにつけ心身ともに思うような行動が出来なくなる。生活する中で病に罹ったり、病に罹るのではないかと心配します。やがて我等は皆死んで往くのですが、苦しみの中で、いくらもがいていてもお迎えが来るまで、死ぬことが出来ません」。そんなことはない自死すれば、死を予知する事が出来るでは無いかと言えますが、佛の教えに「人身受難し」とあるように、我々が誕生するには、二十代遡るだけで約百万人の血を受けてくるのです。誕生するには、先祖の血肉があつてのことです。自死は周りを悲しませる、悲しませることに因つて、自分も悲しみから抜け出す事が難しいのです。法然上人のお言葉に「**命終の時に臨んで、心顛倒せず・心錯乱せず・心失念せず・身心に諸々の苦痛なく・身心快樂にして**」、往くべしと、言われました。逝かれる方、送る方の心構えです。自死は、この内容に反してしまうのです。昨年度はコロナウイルス感染症に見舞われ、社会環境の大きな変動で、自死された方が増加に転じました。我々の一生には吾はつきものですが、少しでも佛の力添えを頂き、**苦の軽減をお願いする法要が善入院の七草法要です**。我々の命終に際し、お迎えに来てくださいます。来迎図を拝み、南無阿弥陀仏と書かれた護符を清水に浮かべて、**十念し、飲み干す行事です**。お釈迦様の言葉に「すべてのものは、うつろいいく、おこたらず、つとめよ」と又「人は劣つた人に親しむならば、下劣なものになり、等しい人に親しむならば、退くことがない、すぐれた人につかえるならば、速やかに上に進む。だから自己より優れた人に親しみつかえよ」と、諭されました。**友を選び、清らかな人々との共住をすすめているのです**。皆共に助け励まし合って生きていきましょう。

先月バイデン大統領と副大統領ハリス女史の就任挨拶がありました。神の位置づけがしっかりしています。両者ともMay God bless Amerika.と言っています。方や日本は神仏を敬い公的な場面で声に出すことは出来ません。タブーです。宗教離れも頷けます。この世には目には見えない大きな力が存在しています。従いまして、誓いの言葉が軽くなり、破つてもたいした咎めもありません。